

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平成29年度公営住宅(下山門住宅その2地区)新築	階数	地上10F
建設地	福岡県福岡市西区下山門団地1038	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、法22条区画	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2017年6月5日
敷地面積	2,929 m <sup>2</sup>	作成者	蔵原住代子
建築面積	519 m <sup>2</sup>	確認日	2017年6月5日
延床面積	3,665 m <sup>2</sup>	確認者	伊東 正太郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.9</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.0</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.7</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.5</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>周囲は低層の住棟が立ち並ぶ団地のため、周囲の景観に配慮した色彩とし、緑を多く配置した。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>0</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>建築基準法を満たし、かつ規制対象外となる建材をほぼ全面的に採用している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>福岡市福祉のまちづくり条例の基準を満たし、住宅性能評価基準: 3.劣化の軽減に関すること の項目において等級3を取得予定。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>可能な限り緑化を行った。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>省エネ法(新基準)に適合する仕様としている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>リサイクル材料を内装材に使用している。再生クラッシュアスファルト、再生密粒度アスファルト採用</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>適切な駐車スペースを確保している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される